

43-1 赤羽から飛鳥山へ痕跡・遺構探し (距離約 11.0km)



今は珍しい、スターハウス

【街歩きの概要】

石神井川の北、赤羽側には、旧陸軍などの遺構が多く残るのでこれをたどることにする。そして、かつて蛇行していた石神井川は、都市化に伴い直線化が行われて、コンクリートで固められた河川になっている。蛇行跡は、緑多い公園や公共施設となって利用されているから、これも併せてたどってみる。遺構のことは、『東京の痕跡（遠藤ユウキ著）』を手本にして、地図を広げて赤羽から飛鳥山へとたどって、痕跡・遺構探しをする。

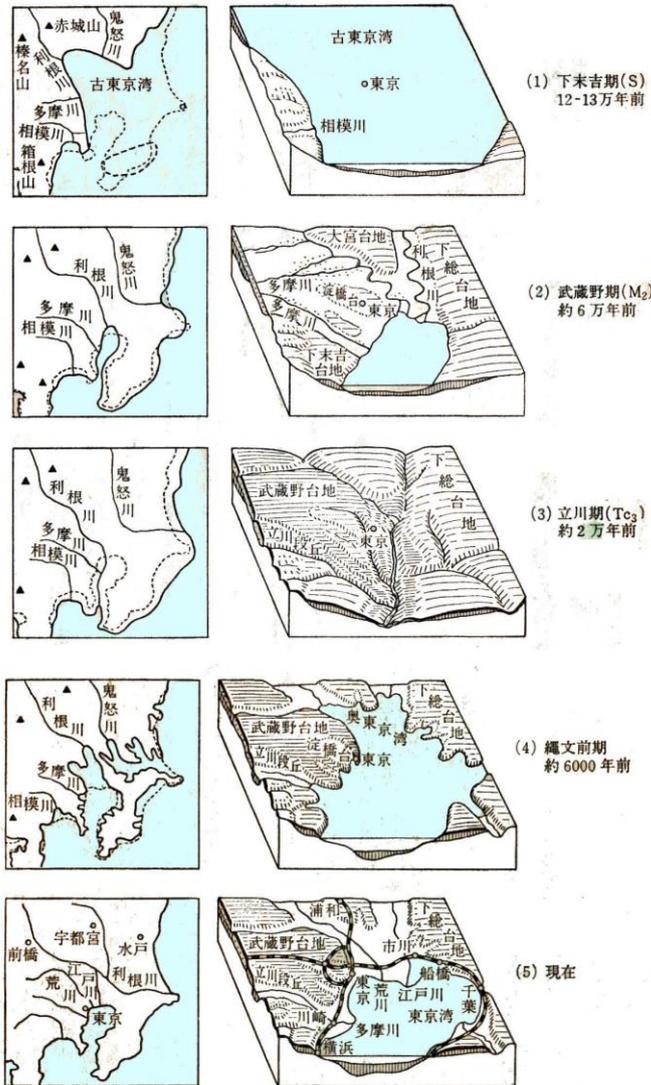
【道順】

北赤羽駅（北赤羽駅）→諏訪神社（几号水準点）→兵器補給廠専用線跡・ミタマ古墳→スターハウス→稲村城址（静勝寺）→清水坂公園へ→十条富士・ちんちん山児童遊園の鉄道トンネルアーチ・名主の滝公園・王子稻荷神社→旧造兵廠十条工場跡と本部庁舎跡（旧米軍極東地図局跡）→跨線橋跡・加賀前田家下屋敷跡・トロッコ線路跡・板橋火薬製造所弾道検査石積→石神井川蛇行跡を見ながら→金剛寺→石神井川蛇行跡緑の吊り橋→近藤重蔵像の正受院（から音無親水公園）→JR 王子駅

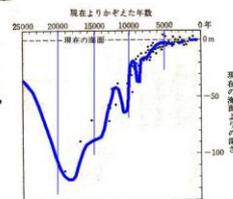
地図豆知識 武蔵野台地（再掲）

武蔵野台地とはどの範囲をいうのだろうか。それは、関東平野西部の、北は入間川と荒川、南は多摩川に挟まれた地域に広がる高まりであって、地形学的には 100 万年前から 1 万年前までの洪積世に形成された洪積台地である。

武蔵野の洪積台地は下末吉段丘と呼ばれるものである。それは、下末吉海進の最盛期（約 12～13 万年前）に、関東平野が全面的に海となり、房総半島南部は島になっていた。その後、縄文時代までに、三浦半島・大磯丘陵では 100m 以上隆起した。武蔵野台地は、その陸化以前の海底面であるから、大部分は浅い海底に堆積した地層よりなっていて、その上に多摩川などの礫層や関東ローム層が堆積している。いま、武蔵野台地の縁に位置する海蝕崖の跡は、ほぼ JR 京浜東北線に沿っている。



図Ⅷ-5 関東平野の変遷(貝塚, 1961を改訂)
左列の三角は活動中の火山。右列の断面にみえる黒い層は関東ローム層の上部(立川ロームと武蔵野ローム), 点は河岸段丘砂礫層, 縦線は主に海成層(成田層群と沖積層)。



図Ⅷ-1 2万5000年前以後の海面変化。

関東平野の変遷 (貝塚爽平から)

現在の標高は、台地西端の青梅辺りで180m、山の手の台地の東縁では20mから30mの、前者を頂点(扇頂)とするやや変形な扇状地地形である。武蔵野台地をさらに区分すると、西に大きく広がる武蔵野段丘のほか、東には開削が進んだ谷を境として、北から成増台、豊島台、本郷台、淀橋台、目黒台、荏原台、久が原台が存在する。

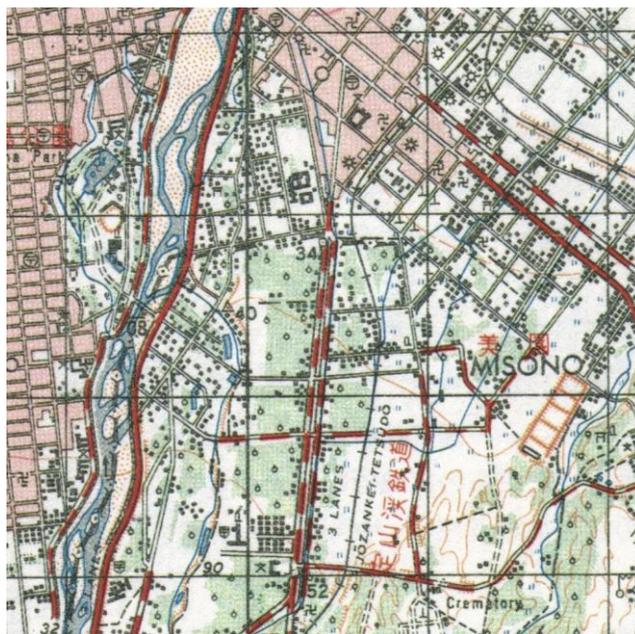
1959（昭和 34）年には、日米地位協定の下で双方が使用できる 5 万分の 1 特定地形図が作成され、さらにこれを利用した日本の 5 万分の 1 地形図も作成される。

同地形図は、ローマ字表記が使用されているほか、第一次世界大戦後にイタリアの軍事地理研究所が開発したといわれるグリッド（・ゾーン）と海面には等深線などが、そして道路区分にも乾期のみ通行可能道路などがある、見方によれば攻撃目標の共通化や上陸舟艇や軍用車両を意識したかのような情報が書き込まれていた。日本人手で共同作成された地形図もまた、米軍に提供された。

この地図作成協定の内容を知ったマスコミは、常から官製地図にほとんど関心も示してこなかったのだが、「こっそり日本の軍用地図 国土地理院、米に渡す」と、大きなタイトルで問題提起した。そこには、「旧日本陸軍の参謀本部さえも作らなかったような特殊な軍用地図を」とか、「独立国家あるまじき行為だ」といった激しい文字もあった。

実情はというと、終戦時の学童がいよいよながら食した脱脂粉乳などに代表されるアメリカの余剰農産物を利用した経済援助に対する、日本が支払った代金の一部資金をもって地形図作成を行ったもの。地図の内容についての当局側の言い分は、「グリッドは西欧地図ではごく普通に使用されているもの、等深線などの新しく記載された情報も、国家秘密とはいえないものである」との見解だった。思い返せば納得できる内容である。

ともかく、極東地図局がこの間に写真測量で作成した地図は、日本地域と東南アジア各地に及ぶものであった。1966 年には、王子キャンプの極東米国陸軍地図局はハワイに移り、地図における日本戦後はやっと終わる。



5 万分の 1 特定地形図「札幌」



「軍用地図事件」と報じる1967年の新聞紙面

地図豆知識：近藤重蔵と甲冑姿の像



近藤重蔵甲冑姿の石像と像

蝦夷地を探検した人々の年代をおさらいしておくと、忠敬(1745-1818)、徳内(1755-1836)、重蔵(1771-1829)、林蔵(1780-1844)、武四郎(1818-1888)の順となる。忠敬が一番年輩ではあるが、蝦夷地を目指したのは忠敬が1795年、徳内が1785年、重蔵は1798年、林蔵は1799年で、四人はほぼ同時期であった。武四郎は、40年ほど遅れて1843年である。

重蔵はその後、五回に渡って蝦夷地と千島、樺太を訪れて新道開削、航路開拓など北方経営に成果を上げ、札幌創建の意見を述べたという。博学で蔵書も多く、その後御書物奉行に栄進した。

墓は文京区東京都文京区向ヶ丘 1-13-8 西善寺にあり、墓碑の横にある説明文には、諱名（いみな）を守重といい、駒込に生まれ湯島聖堂の学問吟味に最優秀で合格したとある。そして、50 歳になって大阪弓奉行を解任され蟄居した現在の北区滝野川の正受院には、重蔵の甲冑姿の石像がある。

平戸藩主松浦静山の残した「甲子夜話」にある、「お咎をうけて江府に還る。是も程ありて御免蒙り、郊外に居を構へ住りと聞く。然るに此処に高陵を築き、新富士と称し、山頂に、正斎、白日昇天之所と云碑を立、又山に窟を穿ち、己が甲冑の像など置きたるなど聞せしが・・・」にちなむものであろう。

ほかに、晩年に子の犯した罪のために最期を過ごした滋賀県にも墓がある。

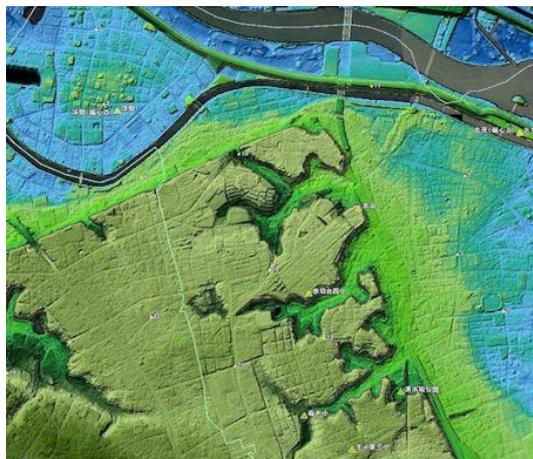
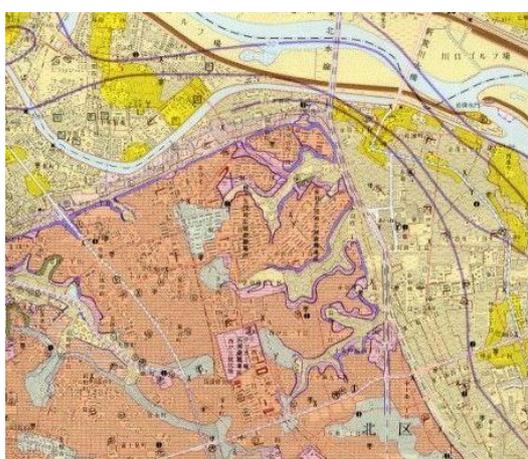
【街歩き解説】

①JR 赤羽駅

JR 赤羽駅から痕跡探しの街歩きをスタートする（北赤羽駅からでもいい）。

京浜東北線・埼京線に向かってせり出すようになった台地の縁を通過して、北へ向かう。かつてここを通過していた兵器補給廠専用線跡を探りながら、埼京線をくぐって、少しの森が残る東の参道（階段）から八幡神社へと向かう。ハケの高まりから見える京浜東北線の向こうは、遠い昔は海だった。赤羽の地名は、赤いハネ（粘土）つまり関東ローム層の見えるところという意味だといわれるから、工事中の現場などに注意してハケの露頭が発見できれば確かめてみるといい。

その台地の上は、かつて軍用施設で占められていて、戦後住宅団地などになった。しかし、赤羽台 4 丁目だけは、下町風な住宅地になっているが、その理由をしらない。



土地条件図・デジタル標高地形図

両図からは、武蔵野台地（土地条件図の橙色部分）が特徴的にせり出しているのが明らかだ。鋭利な刃物で切り取ったようになった台地の縁は、縄文海進期に沿岸流によって浸食された海蝕崖である。土地条件図で、橙色に着色された台地部分は、上総層群、東京層などと呼ばれる固化した泥・砂・礫からなる海成層の上に関東ローム層が堆積した強い地盤である。一方の荒川周辺の黄色系統部分は、荒川の沖積低地で地盤はほぼ軟弱である。

しかし、その中間の薄茶色に着色された部分の詳細は明らかでないが、デジタル標高地形図を同じ地域を参照すると、台地縁から黄緑色になった高まりが見つけれられる。これは台地の崖が波によってくずれて後退し、その前面で岩盤が露出した波食台の一部であるから、ここも地盤は比較的しっかりしている。

ところが、台地に食い込むように発達する小さな谷の辺りは、おなじような色で表現されていても（土地条件図を細かく読むと異なる色）、かつて田んぼか湿地であったところで、軟弱な地盤である。

②諏訪神社（几号水準点）へ

いったん台地から下りて進み、再び坂を上って諏訪神社に向かう。ここには、美しい彫り物、荒川に関連して設置されたと思われる立派な几号水準点、そして近くには開発道路で間断された諏訪神社参道跡が残されている。



諏訪神社（几号水準点）

③兵器補給廠専用線跡・ミタマ古墳

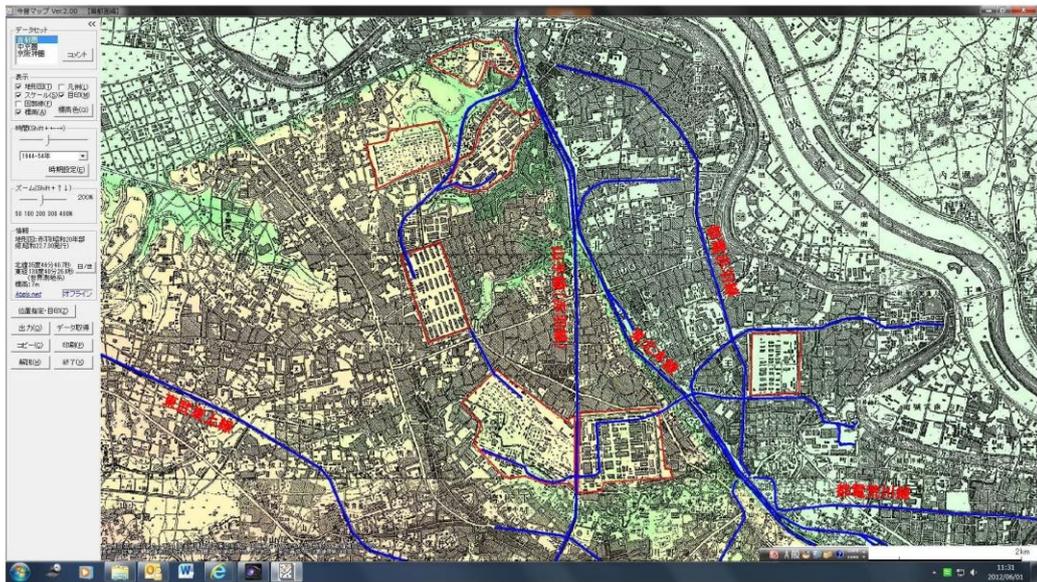
再び南下する。赤羽には明治初期に赤羽火薬庫があり、明治 20 年代以降には第一師団工兵第一大隊、近衛師団工兵大隊、王子火薬製造所、陸軍兵器支蔵造兵廠、陸軍火工廠稻付射場、十条兵器製造所などが都心から移転するなどして軍都の様相を示し始めた。このように軍需工場などの施設が多くあったので、専用引込線跡も発達しその跡も多く残っている。

辺りは、兵器・弾薬・機材などの補給、要塞の備砲工事を担当した陸軍兵器補給廠専用線跡。線路跡は、現在の赤羽自然観察公園・ナショナルトレーニングセンター陸上競技場へと向かう。赤羽台団地 51 号棟内側にミタマ古墳があるから立ち寄る。

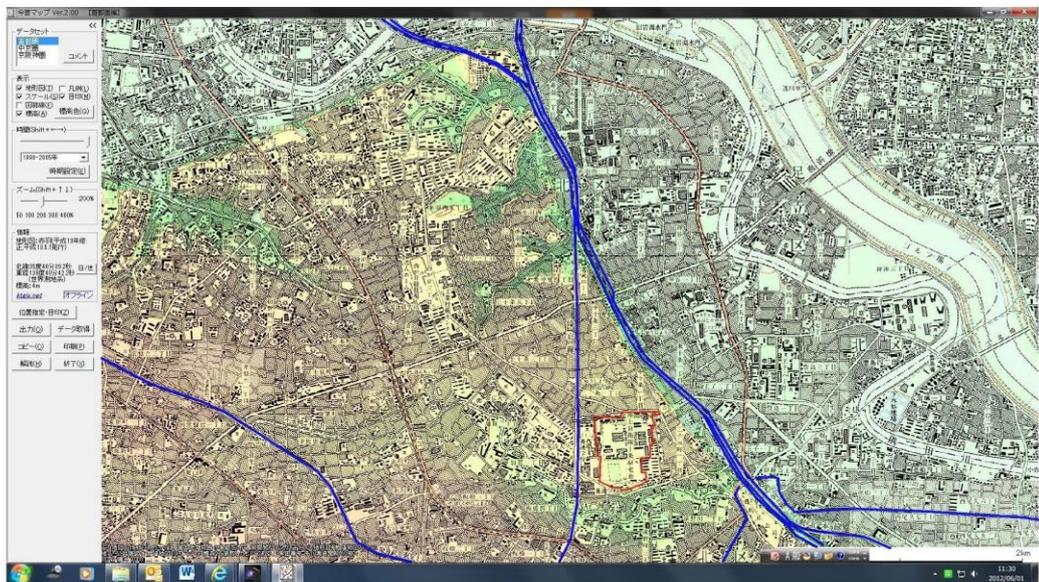


兵器補給廠専用線跡・ミタマ古墳

S20



H13



地形図に表現された赤羽附近の鉄道（青）と軍関係施設（赤）

昭和 20 年地形図（上）で、路線名が無いものはすべて専用貨物線である。平成 13 年地形図（下）に残ったのは、埼京線（旧赤羽線）東武東上線、東北本線（京浜東北線・新幹線）そして都電荒川線だけである。平成 13 年地形図では、自衛隊駐屯地のみ。

④スターハウス

赤羽台団地 51 号棟内側にあるミタマ古墳を見てから、その形が、上空から見ると Y 字型、星状になっていることから、スターハウスと呼ばれたアパートを訪ねる。Y 字形になったアパートは、今では珍しいつくり。昭和 30 年代に整備されたスターハウス、今では歴史的建築物として一部が保存されようとしている。

⑤赤羽 1 番街商店街

少しより道をして赤羽駅東へ向かうと、赤羽一番街商店街がある。辺りは戦前から商業活動が盛んであった地で、戦後いち早く復興を目的として商店街が組織されたのだという。本町通りと並行して北へ抜ける通りと、その東のシルクロードというアーケードがメインで、川魚・うなぎの店、個人経営の小さな飲み屋などが軒を連ねるレトロな感じが楽しめる商店街である。



稲付城址（静勝寺）・赤羽 1 番街商店街で

⑥稲付城址（静勝寺）

赤羽駅東から西へ出て、鎌倉街道（岩槻街道）だったという台地の縁を通る道から階段を上った先にあるのが、太田道灌が築いた稲付城址。永正元年（1504 年）に、道灌の禅の師匠雲綱が、死んだ名将の菩提を弔うために草庵を結び道灌寺と名付けたのが寺の起源であるという。

稲付城址のある静勝寺から四方を眺めれば、武蔵野台地が東へとせり出した場所で誰の眼にも要衝であったことがわかる。城址へ上る南坂の傾斜と曲がり、武士が登城した当時の思わせるいい雰囲気醸し出している。

⑦清水坂公園へ

静勝寺から旧岩槻街道らしき道をたどって、住宅街の中の和菓子の喜久屋で一休み。さらに、台地上を南下して谷へと下りて、赤羽西交番近くで、区画整理で切り取られて変

形になった建物などを見てから清水坂公園に向かう。この公園の池は本郷台の湧水を水源にしているという。地下埋設された四等三角点があるからのぞいてみる？

その後、東十条駅に寄り道して、かつての海蝕崖が実感できるハケの上から同駅舎などを、ここでものぞきこむようにして見る。眼下に広がる海？を想像しながら 東になった鉄道線路と住宅街の拡がりを見る。



変形になった家屋・三角点（清水坂公園）

⑧十条富士（・名主の滝公園・王子稻荷神社・王子神社・音無親水公園）

ご存じ富士信仰に基づき、富士山に模して造営された人工である富士塚を訪ねて、仰ぎ見ると同時に登山もする。

コースから外れるが JR 線の東にある、ちんちん山児童公園には軍用線で使われていたトンネルの石のアーチが残されている。さらに寄り道すれば、隣は名主の滝公園である。そこは、王子村の名主畑野家が、その屋敷内に滝を開き、茶を栽培して、一般者が利用できる避暑のための施設としたものだとか。さらに南には、古くは岸稻荷と称していたという王子稻荷神社がある。近世の大家柴田是真の扁額、願い事を唱えながら持ち上げて、その軽重によって占う「御石様」などが知られる。門前に久寿餅を商うはと屋がある。



十条富士・軍用線トンネルの石のアーチ（ちんちん山児童公園）



名主の滝（公園）・王子稻荷神社

更に寄り道、南下するなら王子神社へと出る。

王子神社への末社の関神社は、全国でも珍しい「髪の子神」である。その祭神は百人一首でも有名な蟬丸公で、姉「逆髪姫」のために髻・鬘を作ったという伝説により、髻・鬘や床山業界の方々の信仰厚い神社だとか。王子神社境内入り口そばには、水準点がある。

音無親水公園は、古くから景勝地として親しまれていたという音無川（石神井川）が飛鳥山トンネルで通過したことで、残った河川敷を公園としたもの。



音無親水公園

⑨旧造兵廠十条工場跡と本部庁舎跡（旧米軍極東地図局）

予定のコースをたどる。

十条富士から荒川小学校を経て、自衛隊十条駐屯地へと向かう。住宅地に終わりを告げて最初に目に入るのが、駐屯地正門に使用されている赤煉瓦である。また、敷地内には「旧変圧室」モニュメントも残る。これは、「明治38年この地に建設された東京砲兵工廠銃砲製造所に使用されたものの一部を保存したものです」とある。

さらに進んで、砲兵工廠・後の造兵廠十条工場跡（旧東京第一陸軍造兵廠跡十条工場275号棟跡）は、現在北区中央図書館になっている（造兵廠は、武器・弾薬などの設計・製造・修理などを行い、その蓄積のために使われる軍隊直属の工場のこと）。

その南にある白亜の旧造兵廠本部庁舎跡は、のちの旧米軍極東地図局跡（戦後、日本とその周辺の地図作成を担当した）で、同局がハワイに移転したのちはベトナム戦争傷病者

を受け入れた王子野戦病院が開設された。現在北区中央児童文化センターとなっている。極東米軍の地図作りについては、引率者が説明するだろう。

同施設東には、新幹線工事に伴って発掘され移設された、ドームになった赤羽台第3号古墳石室がある。



旧造兵廠十条工場跡と本部庁舎跡（旧米軍極東地図局跡）
それぞれ、現在は北区中央図書館と北区中央児童文化センター

⑩ 跨線橋跡・加賀前田家下屋敷跡・トロッコ線路跡・板橋火薬製造所弾道検査石積

西へとすすむ。JR 埼京線の脇には、コンクリート製の橋台が残っていて、これは明治 38 年の軍用線トロッコ軌道敷設時に建設された跨線橋跡だという。

石神井川を渡った先の加賀前田家下屋敷跡（現加賀公園）にも、板橋火薬製造所を通る電気軌道（軌道幅 750mm のトロッコ）の線路跡が残る。その板橋火薬製造所は、昭和 15 年に東京陸軍第二造兵廠となった。築山の一部に製造した弾丸を試射するための標的である弾道検査石積が残っている。さらに奥には、火薬製造に係る圧摩機圧輪記念碑が残る。

辺りは、加賀前田家下屋敷跡で平尾邸と呼ばれ、藩主と家族のための別荘として使われていたという。今は、築山の一部が加賀公園内に残るだけだ。



トロッコ線路跡・板橋火薬製造所弾道検査石積

⑪ 石神井川蛇行跡を見ながら

ここからは、現石神井川の左右に残る蛇行跡を見ながら東進する。

石神井川は、小平市花小金井南町（小金井カントリークラブ）の湧水を水源とし、途中の武蔵関公園の富士見池、石神井公園の三宝寺池と石神井池の湧水を集めて流れる。

北区付近では滝野川、音無川、王子川などとも呼ばれる。また北区内では、かつて音無溪谷と呼ばれて、飛鳥山の桜と並ぶ紅葉の景勝地であった。そして現在は、名主の滝だけしか存在しないが、王子七滝もあった。

石神井川本来の流れは、飛鳥山手前から現在の谷田川（藍染川）筋となって南下し不忍池、お玉が池あたりから東西堀留川に落ちるものであった。その後河川争奪によって、飛鳥山の北で武蔵野段丘（上野台地）を切り開くように東進し隅田川へと注ぐようになった。

したがって、旧石神井川流路（北区西ヶ原）付近には谷中分水界が存在する。

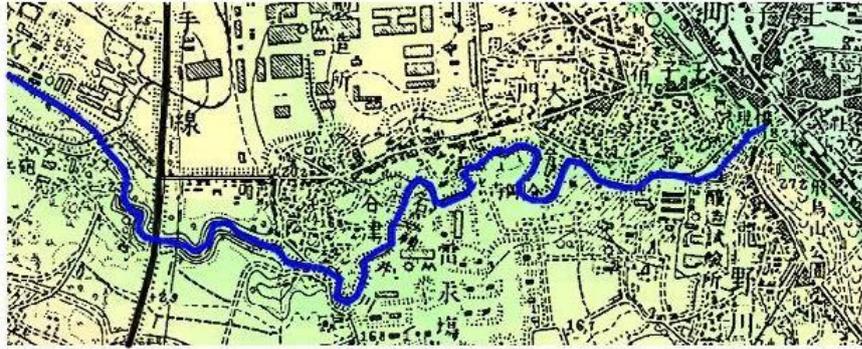
そうしたこともあって、洪水時における石神井川流域の浸水被害はもちろん、谷田川流域での浸水被害を防ぐために飛鳥山分水路が建設され（昭和 S57 年 1982）、跡地には音無親水公園がある。

また、旧版地図で明らかなように石神井川は、河川改修・直線化が行われてきた。その河川改修した石神井川の蛇行跡を利用した「音無くぬぎ緑地」（右岸側）「音無こぶし緑地」（左岸側）が地図上でも明らかであり、現地でも簡単に確かめられる。また、当時のままにすり鉢状に残して遊水機能も維持している「音無もみじ緑地」（右岸側）なら、更に明らかだ。石神井川畔の桜並木は有名である。

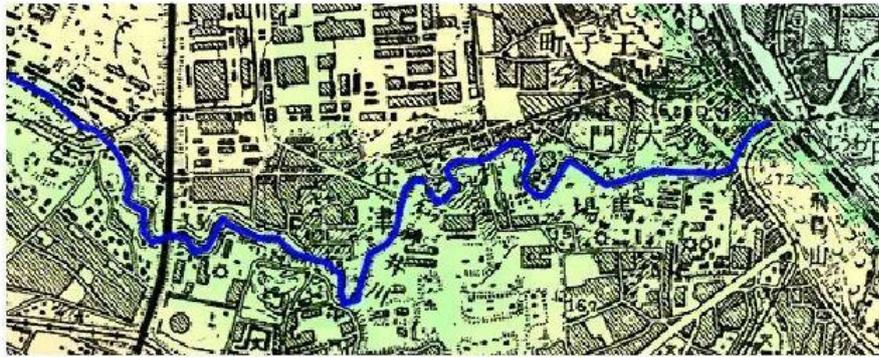


蛇行跡を利用した音無もみじ緑地と音無くぬぎ緑地

M42



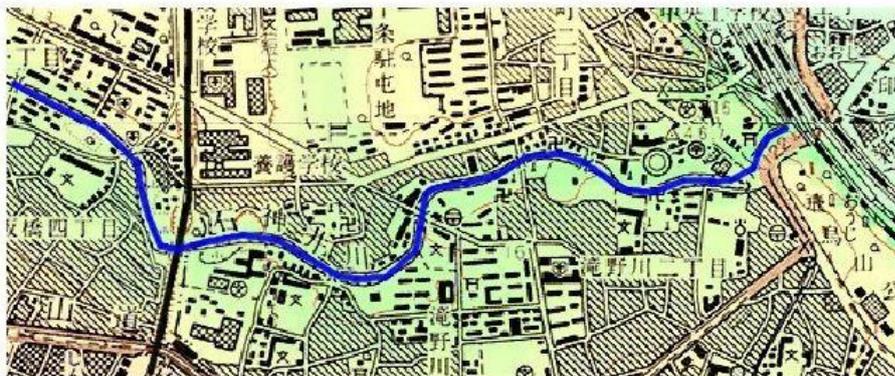
S20



S42



H13



直線化が明らかな石神井川流路の変遷

⑫金剛寺

紅葉小学校の南にある四本木稲荷は、かつて造兵廠滝野川工場内にあったもの。黒色火薬黒色火薬製造に係る圧輪を利用した忠魂碑が残り、「火具製造所一同」刻みが残る。

音無もみじ緑地に近い金剛寺は、滝野川城址でもある。源頼朝布陣伝承地の案内板がある。



金剛寺にて・石神井川蛇行跡にかかる「緑の吊り橋」

⑬石神井川蛇行跡緑の吊り橋

石神井川蛇行跡を利用した「音無さくら緑地」は緑が多く、「緑の吊り橋」と名づけられた（23区内唯一の？）吊り橋がある。周囲を注意深く観察するとハケから水がしみ出す露頭を見ることができる。

⑭近藤重蔵像の正受院（から音無親水公園）

正受院には、蝦夷地探検、択捉島に「大日本恵土呂府」の標柱を建てたことで知られる近藤重蔵の小さな像がある。近藤重蔵と地図のことは、引率者が説明するだろう。

13JR 王子駅

最後に王子神社や飛鳥山を訪ねて、痕跡探しの街歩きを JR 王子駅で終わる。

その他類似コース

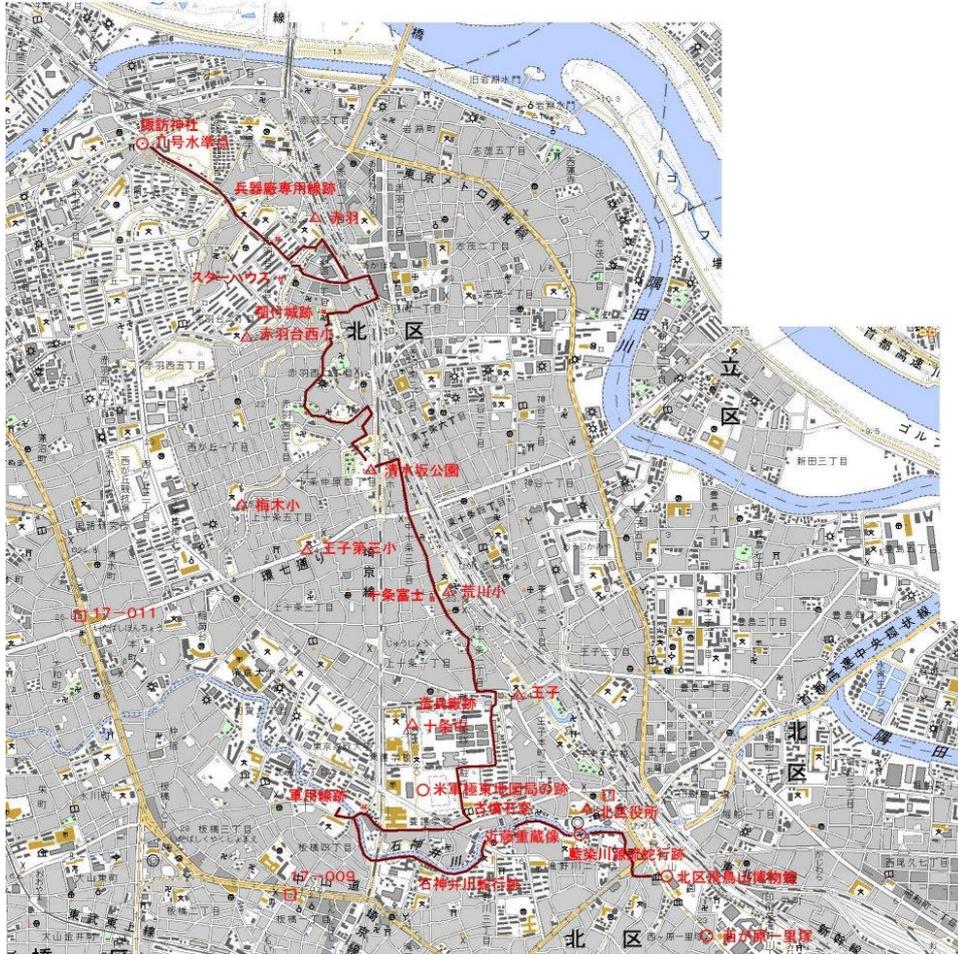
その 37-1 軍都赤羽 1 番街商店街へ（5.5km）

都営三田線本蓮沼駅から→国立西が丘サッカー場→東京陸軍兵器補給廠専用線跡 1→赤羽自然観察公園（湧水）→稲付城跡（静勝寺）→スターハウス→ミタマ古墳→東京陸軍兵器補給廠専用線跡 2→赤羽 1 番街商店街→JR 赤羽駅へ

その 44-1 旧陸軍の遺構などをたどりながら石神井川を上る（4.5km）

JR 王子駅→王子神社・音無親水公園→米軍極東地図局跡・中央公園→軍用線路跡・加賀公園→石神井川蛇行跡・遊水池公園→飛鳥山公園→JR 王子駅

ルートマップ



+***+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +***+